

番号	42	令和 7 年度公共事業再評価調査				担当課名	港湾整備課																																		
事業名	津波対策緊急事業				事業主体	静岡県																																			
箇所名	しみずこうかいがん ひ で ち く 清水港海岸 日の出地区				関係市町	静岡市																																			
事業採択年度	令和 3 年度		計画期間	令和3年度 ～ 令和12年度																																					
用地着手年度	令和 - 年度		工事着手年度	令和 3 年度																																					
再評価理由※	事業着手（R3）後5年間が経過した時点で継続中の事業																																								
全体事業費	百万円	投資状況 (百万円)	～R5年度	R6年度	R7年度見込	計																																			
	6,727		1,150	450	350	1,950																																			
事業概要	(1)事業目的 想定される津波及び台風等による高潮に対し浸水対策をすることにより、水害に強い海岸を作るとともに、安心安全な市民生活の確保を図る。 (2)事業内容 胸壁（新設）： 1,370 m 陸間（新設）： 26 基 胸壁（改良）： 108 m 陸間（改良）： 3 基																																								
【視点1】	(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 清水港海岸日の出地区は、物流、人流、緑地、商業、行政等の多様な施設や機能が集積している上に、緊急輸送路や緊急輸送岸壁等の防災施設も有しており、防災拠点として機能することが期待されている。一方、切迫する東海地震等の大規模地震により発生する津波の到達時間が短いと想定されており、背後地域の安全・安心な生活確保のため津波対策施設の整備が急務となっている。 (2)事業の投資効果 ○費用便益分析結果 (令和 7 年度時点) <table><tr><td>B/C (i=4%)</td><td>参考:B/C (i=2%)</td><td>参考:B/C (i=1%)</td><td>EIRR</td></tr><tr><td>1.4</td><td>1.8</td><td>2.1</td><td>6.8%</td></tr></table> ・総便益 (B) 89.2 億円 (浸水防護便益：89.17億円) ・総費用 (C) 63.0 億円 (建設費：57.63億円、維持管理費：5.40億円) ○見込まれる効果（定性的な効果） ・レベル1津波から着実に命を守る。 (3)事業の進捗状況 (令和 7 年度見込み) <table><tr><td colspan="2">区 分</td><td>進捗率</td><td colspan="2">内 訳</td></tr><tr><td colspan="2">事業費</td><td>29.0%</td><td colspan="2">(1,950 百万円 / 6,727 百万円)</td></tr><tr><td rowspan="2">事業量</td><td>胸壁・陸間(新設)</td><td>20.2%</td><td colspan="2">(277 m / 1,370 m)</td></tr><tr><td>胸壁・陸間(改良)</td><td>0.0%</td><td colspan="2">(0 m / 108 m)</td></tr><tr><td colspan="2">用地取得</td><td>—</td><td colspan="2">(- m² / - m²)</td></tr></table> <table><tr><td>評価</td><td>継続が妥当</td></tr></table>							B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR	1.4	1.8	2.1	6.8%	区 分		進捗率	内 訳		事業費		29.0%	(1,950 百万円 / 6,727 百万円)		事業量	胸壁・陸間(新設)	20.2%	(277 m / 1,370 m)		胸壁・陸間(改良)	0.0%	(0 m / 108 m)		用地取得		—	(- m ² / - m ²)		評価	継続が妥当
B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR																																						
1.4	1.8	2.1	6.8%																																						
区 分		進捗率	内 訳																																						
事業費		29.0%	(1,950 百万円 / 6,727 百万円)																																						
事業量	胸壁・陸間(新設)	20.2%	(277 m / 1,370 m)																																						
	胸壁・陸間(改良)	0.0%	(0 m / 108 m)																																						
用地取得		—	(- m ² / - m ²)																																						
評価	継続が妥当																																								
【視点2】 今後の 事業の進捗 の見込み	本事業については、東日本大震災以降、地元や関係者からの事業に対する期待が非常に大きく、早期の防潮堤整備が求められている。 今後もコスト縮減に努めつつ、計画的な事業推進を図ることで、令和12年度までの計画期間内における完成を目指していく。 <table><tr><td>評価</td><td>継続が妥当</td></tr></table>							評価	継続が妥当																																
評価	継続が妥当																																								
【視点3】 新たなコスト 縮減・代替案 立案等 の可能性	開口部については、通常の電動式陸間ではなく、無電力で自動閉鎖する起伏式フラップゲートを採用し、コスト縮減に取り組んでいる。引き続きコスト縮減に努めつつ、計画的な事業推進を図る。																																								
対応方針 (案)	(1)対応方針（案） 本事業を 【 継続 】 する。 (2)理由 本事業は近年、海岸保全施設整備により津波・高潮浸水被害から財産を守るものである。近年、東日本大震災や能登半島地震での津波発生により、事業の必要性が高まっており、早急な対策が求められている。さらに、事業の投資効果も見込まれ、地元住民からの期待も大きく、今後の事業の進捗が見込めることから、事業を継続する。																																								

費用便益比算出説明書

清水港海岸津波対策緊急事業

(「海岸事業の費用便益分析指針(改訂版)(令和6年2月一部変更)平成16年6月)
(「治水経済評価マニュアル(案)令和6年4月))

総括表

総便益 B	「浸水防護便益」 事業を実施しない場合に想定される浸水地域での資産被害額	8,917百万円
総費用 C	[建設費] + [評価期間内に必要な維持管理費]	6,303百万円
B / C		1.41

総便益

○「浸水防護便益」 年平均被害軽減額を社会的割引率4%、評価対象期間(整備期間10年+50年)とし、現在価値化する。
総便益 B = Σ 年平均被害軽減額 / $(1+0.04)^n$ = 8,917百万円

※

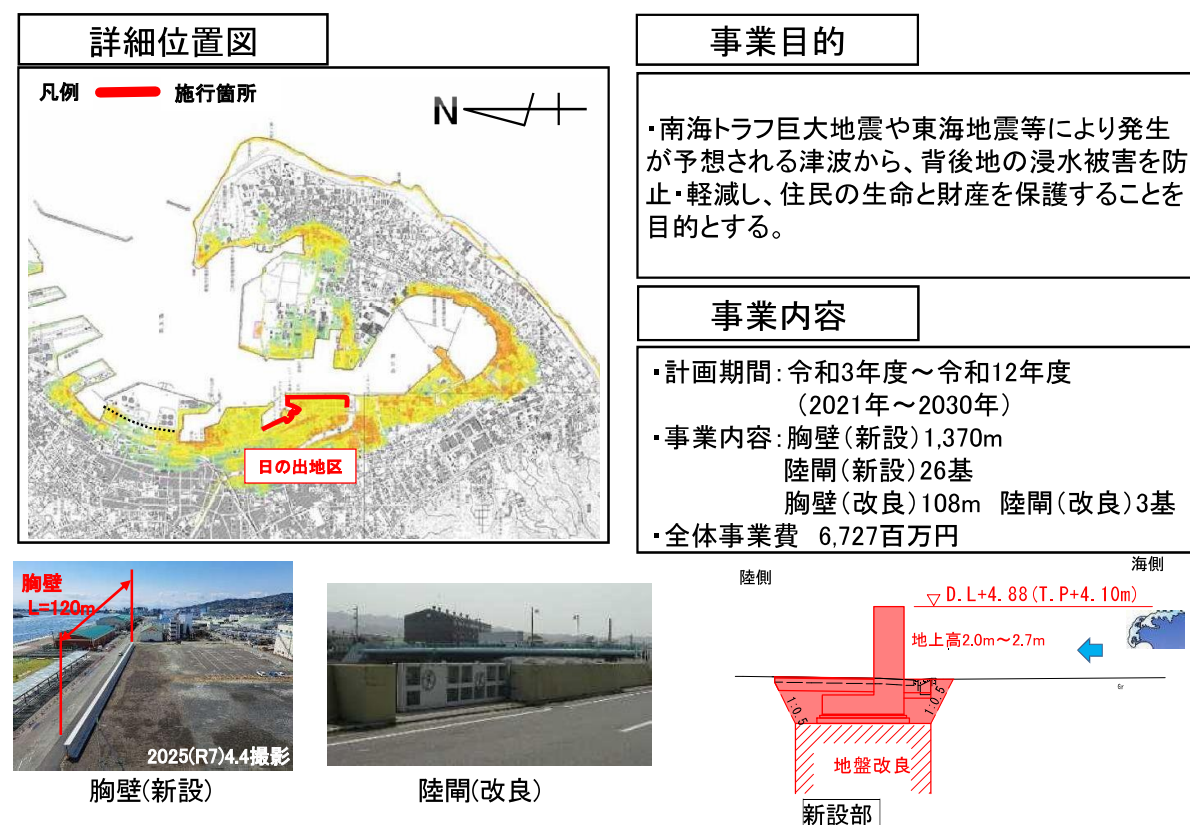
総費用

○事業建設費 5,763百万円
○評価期間内に必要な維持管理費 540百万円
総費用 C = Σ 年間建設費 / $(1+0.04)^n$ + Σ 年間維持管理費 / $(1+0.04)^n$ = 6,303百万円

1. 事業箇所位置図



2. 事業概要



3. 事業目的（整備効果のイメージ）

＜整備目的＞

南海トラフを震源として発生する大規模地震（レベル1）に起因する津波から、背後地の浸水被害を防止・軽減し、住民等の生命・財産を守る

津波防護施設の整備

（胸壁、陸間など）

＜整備効果＞

- 防護区域 約25ha
- 必要堤防高T.P.+4.0m
（想定津波高T.P.+3.9m）

（整備前）



（整備後）



4. 事業の進捗状況（令和7年度末見込み）

事業費		29.0%
事業量	胸壁・陸間（新設）（277m/1,370m）	20.2%
	胸壁・陸間（改良）（0m/108m）	0.0%

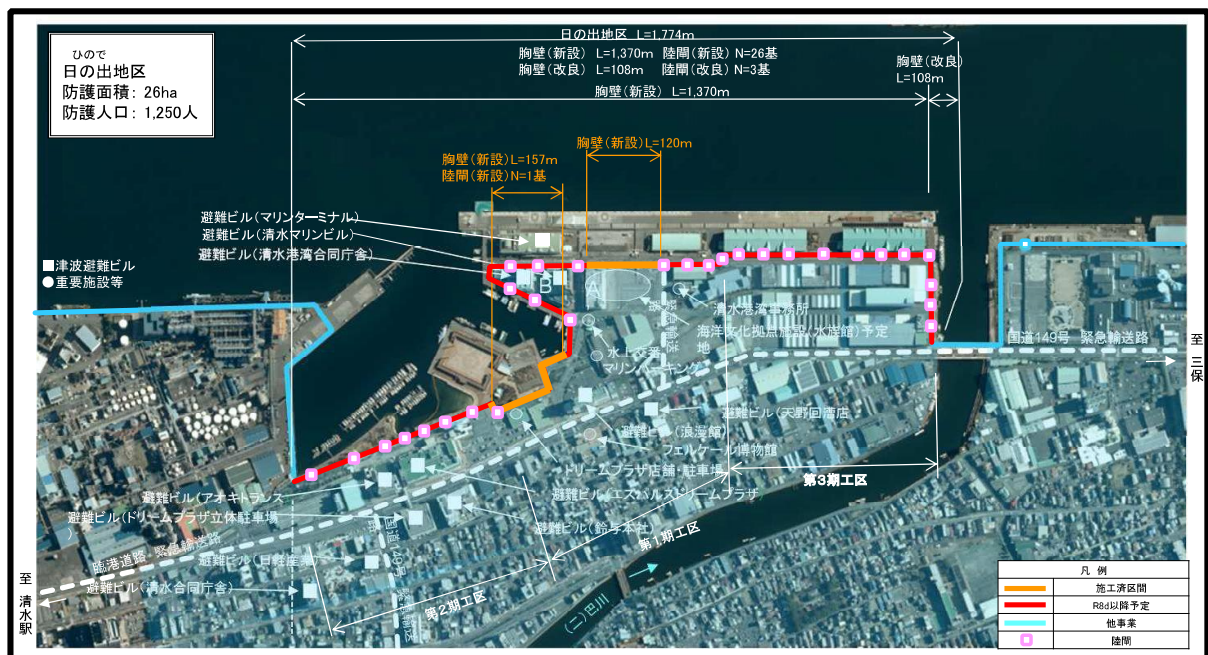
【整備前】



【整備後】



4. 事業の進捗状況（令和7年度末見込み）



5. 前回からの変更点・理由

前回からの変更点・理由

区 分	前回(R3)	今回(R7)	主な変更理由
①計画期間	R3～R12	R3～R12 (変更なし)	—
②全体事業費	5,315百万円	6,727百万円 (+1,412百万円)	・建設資機材価格の高騰、労務単価の上昇、商業施設関係者との調整結果に伴う胸壁等の高質化により工事費が増加

防潮堤計画地周辺状況



日の出地区 胸壁の高質化イメージ



6 . 事業の必要性（事業の投資効果）

総便益(B) = 89.2億円（現在価値換算）

・津波想定浸水域(25ha)における被害軽減効果 ⇒ 便益

①総被害軽減額: 202.9億円

・一般資産被害額: 71.7億円

・公共土木施設被害額: 129.0億円

・公益事業等被害額: 2.2億円

②50年分の被害軽減効果を現在価値換算(総便益)すると

⇒ 89.2億円

総費用(C) = 63.0億円（現在価値換算）

・事業費 57.6億円

・維持費 5.4億円

・総費用(C)に対する総便益(B)

費用便益比 $B/C = 89.2 / 63.0 = \underline{1.4}$ ※前回 1.4

・経済的内部収益率 EIRR = 6.8%

7 . 今後の事業の進捗の見込み

本事業については、東日本大震災以降、地元や関係者からの事業に対する期待が非常に大きく、早期の防潮堤整備が求められている。

今後もコスト縮減に努めつつ、計画的な事業推進を図ることで、計画期間内における完成を目指していく。

●事業推進のための取組

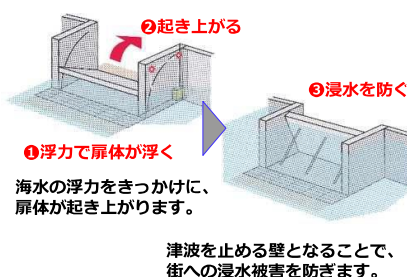
・他事業との連携(エスパルスドリームプラザ新館の建て替えに合わせて、防潮堤を兼ね備えた緑地の整備を実施)や、地元住民との意見交換や現場説明会を今後も継続的に実施する。



8 . 新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性

- 開口部については、通常の電動式陸閘ではなく、無電力で自動閉鎖する起伏式フラップゲートを採用し、コスト縮減（従来構造に比べ約6%縮減）に取り組んでいる。

コスト縮減・維持管理の配慮



9 . 対応方針（案）

- 本事業は静岡県地震・津波対策アクションプログラム2023に位置付けており、地域の津波対策に不可欠な事業である。
- 事業の費用対効果も確保されている事業である。
- 事業進捗率は約29%（約20億円 / 約67億円）であり、令和12年度末には整備完成予定である。
- 津波対策に対する地域住民の要望は非常に大きい。



本事業を **継続** し早期完成を図る。